

2006 あおぞら部会 A班

シャワークライミング体験！

企画報告書

日程: H18年8月26日(土曜日)

場所: 大山フィールドアスレチック～阿弥陀川

参加人数: 14名(内子供2名)

シャワークライミング体験レポート

レポート：赤木 操

参加していただいた皆さん、お疲れ様でした。

お盆休み明け、夏休み最後の週末・・・ということで参加したいんだけど都合が悪いって方が多く、合計14名の参加で今回の企画が行われました。

なぜこの日をセッティングしたかという・・・実はこの日までしかシャワークライミングできなかったんです！

大山フィールドアスレチック主催で今年から始まった夏の人気企画なのですが、8月までの開催で、盆前の9日に企画を決めた時に残された日にちは26日か27日、A班のメンバーの都合で26日とさせていただきました。
27日日曜日が良かった方、ごめんなさいね。

ところでみなさん、「シャワークライミング」ってご存知でした？

A班メンバーも誰も知らなかったんですが、要は「沢登り」のことです。

沢登りって簡単に言いましたが、川の中を靴はいて濡れながら歩くって経験、普通ないですよ～。

岩がゴロゴロしてて、滝もある清流の中を、マイナスイオンたっぷり浴びて、ゆっくり歩く・・・今年の猛暑にうんざりしてた我々にとっては、なんて気持ちよさそうで涼しそうな企画なのって、満場一致で決まりました。

当日は12:00産業体育館に集合、12:45の集合時間に余裕をもって到着するはずでしたが・・・若干の遅刻ファミリー？にドキドキしながらも、全員無事送迎のバスに乗り込み、いざ阿弥陀川へ出発しました。

我々あおぞらメンバー以外の参加者は他県からの観光客が多く総勢25名ぐらいいました。にぎやかにバスは進み、大山国際スキー場から少し下った橋の手前で停車しました。

バスを降りると軍手、軍足を渡されヘルメット着用の上、橋の横から、念願の阿弥陀川へ降りたのでありました。

軍手は岩場や水中に手をつくので保護のために、
軍足は靴の上からはくと水の中で滑り止めになるそうで、ここからはくことになりました。

が、これが最初の難関、だってきつくてはけないんです～、バッシュじゃなくて良かったなどと騒ぎながら何とかはき、まず水に慣れるためなだらかなところを試し歩き。
「冷て～！」水温は一年中15度ぐらいだそうです、足首、ひざとかなりひんやりしてつめた気持ちいいって感じでした。

いざ出発です。

我々はなぜか団体の一番後方に陣取り沢を進んでいきました。

最初はなだらかなんですが、だんだん溪流っぽい岩、が現れます。

滑りやすい川床を、水の抵抗を感じながら慎重に進んで行きます。

水量もひざ下からひざ上になり、身体もかがんだり大きく足を上げたりとどんどんアクティブになってきておもしろくなってきます。

最初は難関は避けて迂回してた人も、気持ちよさに高揚したのかだんだん挑戦するようになってました。

APより参加の遠藤氏やA班中尾君は小学生と同じくらい？のテンションで、パンツはもちろんTシャツもびしょびしょになりながら、みんなが避けて通り過ぎた激流に果敢にも挑んでいきます。

とても無理だろうっていうところでも意外にもいいバランス感覚、鍛え抜かれた？肉体を武器に次々クリアしていきます。

これには同行のインストラクターも関心していらっやいました。

「あの身体すごい」って？？？

池田さんの4歳になるお嬢さんは急な流れが怖いらしくご主人に抱っこされてのクライミングです。激流の中を娘さんを守りながら突き進む姿にみんな感動でした。

池田さんのまなざしも普段では見られない母親の美しいものでしたね～

7歳の男の子が一番元気だったな～

加藤文治さんも決死の綱渡りなど年齢を感じさせない動きで我々あおぞら部会チームの先頭をぐいぐい引っ張ってくれました。

何とか大きな転倒もなく無事コースを終えようと密かに目論んでいた河津さんも終盤に見事な逆ヘッドスライディングを見せてくれました。うんよしよし。

埴田兄も長い手、足？を器用に使いスマートに進んでました。

仙田さんは一番ヘルメットが似合ってたな～

私、赤木はカメラ係として河津さんより預かった非防水のデジカメをTシャツの中にしまいこみ、濡らしちゃいけない(こけちゃいけない)っていう別のプレッシャーと人知れず戦ってました。ホントは一回こけちゃったんですですけどね。ごめんなさい。

さて今回のクライマックスですが、
途中何箇所か難関があってその中でも一番怖かったポイントでの話です。

高低差3メートルほどの段差に倒木を渡し、その倒木の上をバランスをとりながら落ちないようにゆっくり、一人ずつ登りきるってポイントがあったんですが、
終始お嬢さんを抱っこ状態の池田ご主人のトライは、大丈夫かってみんなの注目が集まりました。

危険がないようにみんながフォロー体制にまわります。

「ゆっくり」「慎重に」「こっちのルートの方がいいよ」

自然と他の参加者からも気遣いの声が掛かり、通常より時間をかけ、インストラクターもサポートしながら何とか上りきりました。その間1分ぐらいだったでしょうか。

みんなが息を吞んで見守り、それが安堵にかわったとき自然と拍手が起こりました。
心地よい達成感と一体感でみんながいい気分になっていたときに、その事件は起こりました。

！！！！「恒さんっ」！！！！

ななななんと！別の倒木丸太の上で今にも落ちそうなのを必死にバランスをとって踏ん張っている男がいるではありませんか！！！！

みんなが池田親子に注目してるさなかに邪魔にならないように上で待ってようとも考えていたんでしょうか、

目が真剣です、っていうか、ここで落下したら末永く語り継がれる恥ずかしき伝説になってしまう、それだけは何としても避けなければ！的な意気込みがひしひしと伝わってきます。

そりやものすっごく恥ずかしいですよ。言っても誰一人、小学生でさえ落ちてません

らねこのポイント。

亀田興起流に言う「オレ流のサプライズや！」的な衝撃のノックダウンも期待してたんですが・・・

無事持ちこたえてくれました。

良かった良かった。いやホント

危機を脱出した恒さんに

あおぞらメンバーの失礼な大爆笑が起こったのは言うまでもありませんけどね・・・

そんなこんなでなんとかみんな無事にゴール地点までたどり着くことができました。

感想は・・・すっげ～気持ちよかった～～です。

最初感じた清流の冷たさにもすぐに慣れ、とにかく美しい自然の中にいることの心地よさ、汗をかかない気持ちの良い涼しさ、優しい川の流れの音・・・、

日々の忙しさで、こんな気持ち忘れてたな～って改めて思いました。

またみんなと一緒に、ひとつの目標に向かって助け合いながら進むって、やっぱり良いなって思いました。みんな会社も立場も違うのに、この会はホンッと仲がいい。

何かうれしく思いました。

このあと大山フィールドアスレチックのキャンプ場へと戻り、夕食のカレーライスなどを、みんなで手分けして作ったのでありました。

カレー、飯ごう炊飯、焼きそば、ししゃも、サラダ、焼き鳥、などなどの豪華メニューを、手分けして作ったころには、すで暗くなっていました。

空腹は最高の調味料って言いますが(それだけじゃないですけど)、すっごくおいしかったです。

ただ・・・作りすぎた・・・。

あまった食材は手分けして持ち帰り、10時ごろ解散となりました。本当にお疲れ様でした～。

今回は準備期間が短く、進行が至らないことが多かったかと思います。

ただ皆さんには寛大な心でつきあっていただきすごくありがたかったです。

次回はもっとがんばります！！ありがとうございました。